

# えますか



## ・〈子供たちの気持ち〉

特別のことがなければ絶対に殴るな。

自分のいいところを見つけて。

話をちゃんと聞いて。

今から高校のことなんて言うな。自分の小さいときや人と比べるな。

なるべくほっといて。

うるさく言わないで。

もう少し自分のことばかり考えないで、私のことも考えて。

勉強勉強とどならないで。

自分がムカついているからって、子供に当たらないで。

学校をもっと楽しくして。学校に落ちつく場所をつくって。

子供の気持ちをもっとわかって。

大人に子供の将来を決める権利はない。いい学校に入れたいというのは

親の勝手、ただいい学校に入れたとしても、子供自身が生きがい

(将来の夢)を持っていなければ何もならない。

子供にはばかり注意するが、子供に言うことは大人も守って。

自分の考えを子供に押しつけないで。

心配してくれるのはわかるけれど、もっと信用して。

人を見かけで判断しないで。

宿題なくして、受験なくして、塾なくして自由にして。

(P4・5アンケート調査「自由意見」より)

市民の皆さんからのご意見より  
(九月五日号で公募)

○自分たちでつくった子供なんですか  
ら勇気と自信を持つて体当たりして  
いってほしいです。それが親の義  
務だと思います。また、何か事が起  
ると先生や学校、教育委員会、警察な  
どのせいにしてしまう親もいます。自  
分の子供は親が命をかけてでも守  
つてやらなければだれが守つてく  
れますか? (伝法 三十代 男性)

○自分たちでつくった子供なんですか  
ら勇気と自信を持つて体当たりして  
いってほしいです。それが親の義  
務だと思います。また、何か事が起  
ると先生や学校、教育委員会、警察な  
どのせいにしてしまう親もいます。自  
分の子供は親が命をかけてでも守  
つてやらなければだれが守つてく  
れますか? (伝法 三十代 男性)

○私はいじめを受け転校しました。  
あのときの私はひねくれて、絶対に  
他人を信じようとはしなかつたし、ど  
うしようもなくて。でも今は違います。  
あれから六年たつてやつと、生きてい  
てよかつたと思える自分になりました。  
今の大人社会に言いたいことがあります。  
見なかつた。見ようとした  
かった。私たちのことを。少年犯罪も  
起きてしまうまで、だれも私たちの  
SOSを聞こうとしなかつた。い  
らない者は捨てるのですか。上から  
見おろすように、私たちを見る。私た  
ちは精いっぱい牙きばを向く。けれどもそ  
れでは何も変わらない。それでもい  
つか変わっていくことを信じてい  
る。(吉川あきさん 中学三年)

# 子供たちの心が見

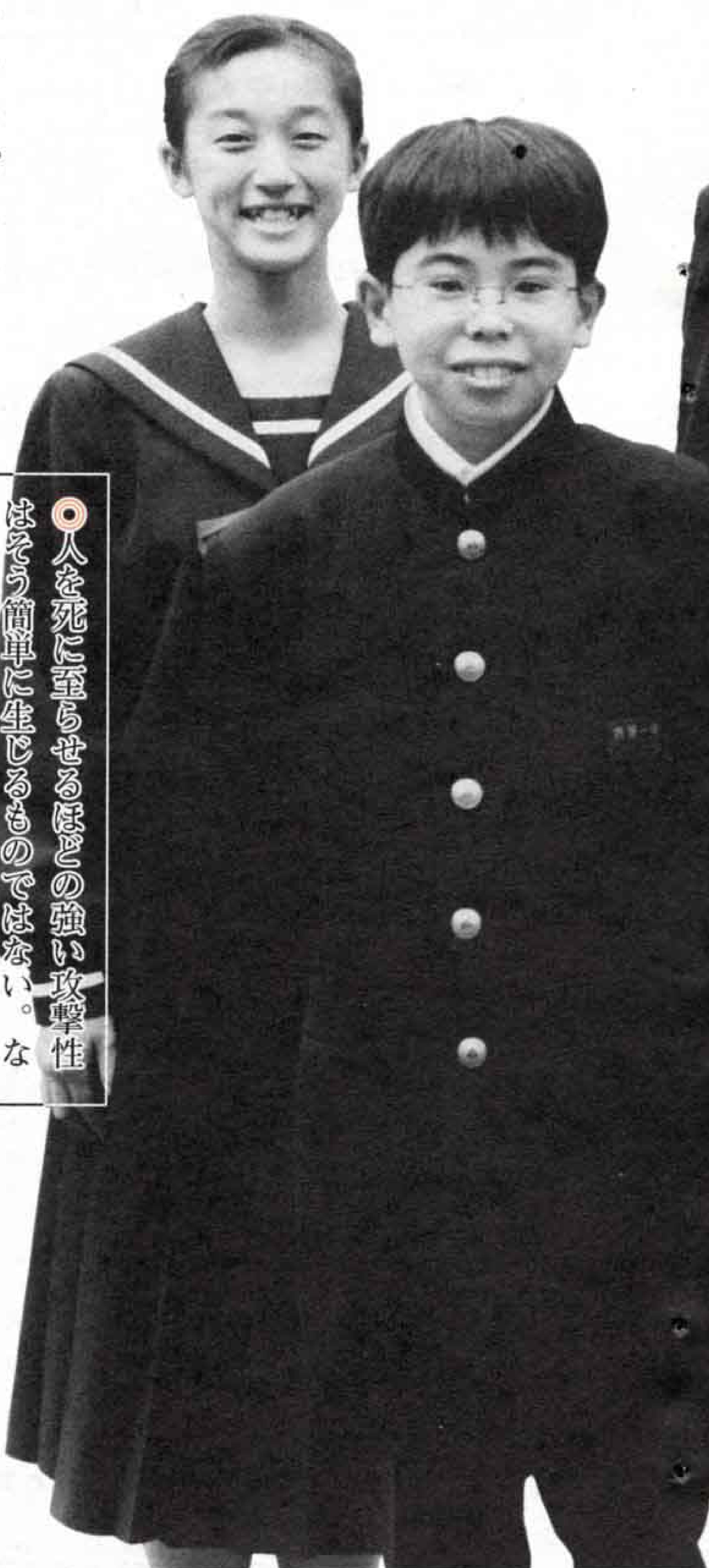
皆さんは、子供たちの心が見えますか。

子供たちをめぐる悲しい事件が続き、子供たちの心が見えないと不安に思っている人も多いのではないでしょうか。

富士市でも、子供の数が減っているのにもかかわらず、非行件数が増加傾向にありますし、不登校の数も減っていないのが現状です。

もはや、子供たちが抱える心の問題は、よそごとではなくなっています。

富士市の子供たちの心を探っていくとともに、私たち大人に何ができるかと一緒に考えてみませんか。



◎人を死に至らせるほどの強い攻撃性はそう簡単に生じるものではない。なのに事件は現実に起きている。物と金のみを追い続けている大人の競争社会に子供たちが巻き込まれていてあかしではないか。教師、家庭、地域が次世代を担う少年たちに対する「和」の心についての土壤づくりが必要であろう。(今泉 七十代 男性)

◎子供たちの心が見えるかの前に、まず自分の心が見えているでしようか。自分の心を知らなければ、子供の抱える苦しみや寂しさ・心を見ることも理解することも難しいような気がするのですが。(川島由美子さん 中里)

◎乳・幼児期の親子の密接な関係を基礎にしてこそ、子供も親も明るく育ち、社会人となつても世の中笑顔で生きていくけるでしょう。

(中村秀子さん 本市場新田)

◎同じ年ごろの子供を持つ友人たちと会うと、決まって話題は塾や受験の事になります。親の期待が大き過ぎるので、子供は重くのしかかつてくる期待に押しつぶされそうになつていて。どこかで逃げ道をつくつてあげないとかわいそう。私は「心身ともに健康」が何よりも思っています。その子供に備わる能力を認めてあげ親なりに応援して見守つてあげる。そして、自分の進むべき道を探して歩んでいいってほしいと思っています。

◎近年、家庭にも教育界にも広く見られる、子供の言いなりを受け入れようとする風潮が、子供の心をますます見えにくくしているように思えてならない。このような子供の心を見よとしても、そうやすやすとは見せてくれるはずがない。しかし、理解しようとする大人の心を子供は理解しようとすると、子供の心は、文字を通して意見を出し合つても、見えてくるものではないようである。

◎最近の子供は耐性力・自制力がないところから「ムカつき」、「きれる」行動につながっていくよう思います。これには厳しさをしつけたいと思います。それには、大人がまず自己中心的な行動をやめて、他を思いやり、自己に厳しくありたいと思います。(松岡 五十代 男性)

(今泉 三十代 女性)

(後藤純一さん 大淵)

示  
事  
例

対象 市内25小学校5年の1クラスの  
全児童 853人

市内14中学校2年の1クラスの  
全生徒 509人

調査期間 平成10年9月5日～11日

「あなたの気持ちを聞かせてください」  
をテラマリ、アリケート調査を行いました。

市内中小学生に協力していただきて、富士市の子供たち  
が日ごろ何を考え、何を思っているかを尋ねました。

# アンケート調査結果

数字は、左側小学5年生、右側中学2年生（百分率、残は不明分）

<b>問1</b>	毎日が楽しいですか。		
	とても楽しい	26.9	26.3
	まあまあ楽しい	53.6	58.7
	あまり楽しくない	9.0	12.8
	まったく楽しくない	0.9	1.2
<b>問2</b>	自分の自由になる時間がありますか。		
	大いにある	18.2	13.8
	まあまあある	55.0	64.4
	あまりない	16.6	20.4
	まったくない	0.7	1.0
<b>問3</b>	ストレスがたまる（イララ する）ことがありますか。		
	よくある	14.0	23.0
	ときどきある	41.7	52.7
	あまりない	29.3	21.2
	まったくない	5.4	2.9
<b>問4</b>	グラフ①		
<b>問4-1</b>	グラフ②		
<b>問4-2</b>	グラフ③		

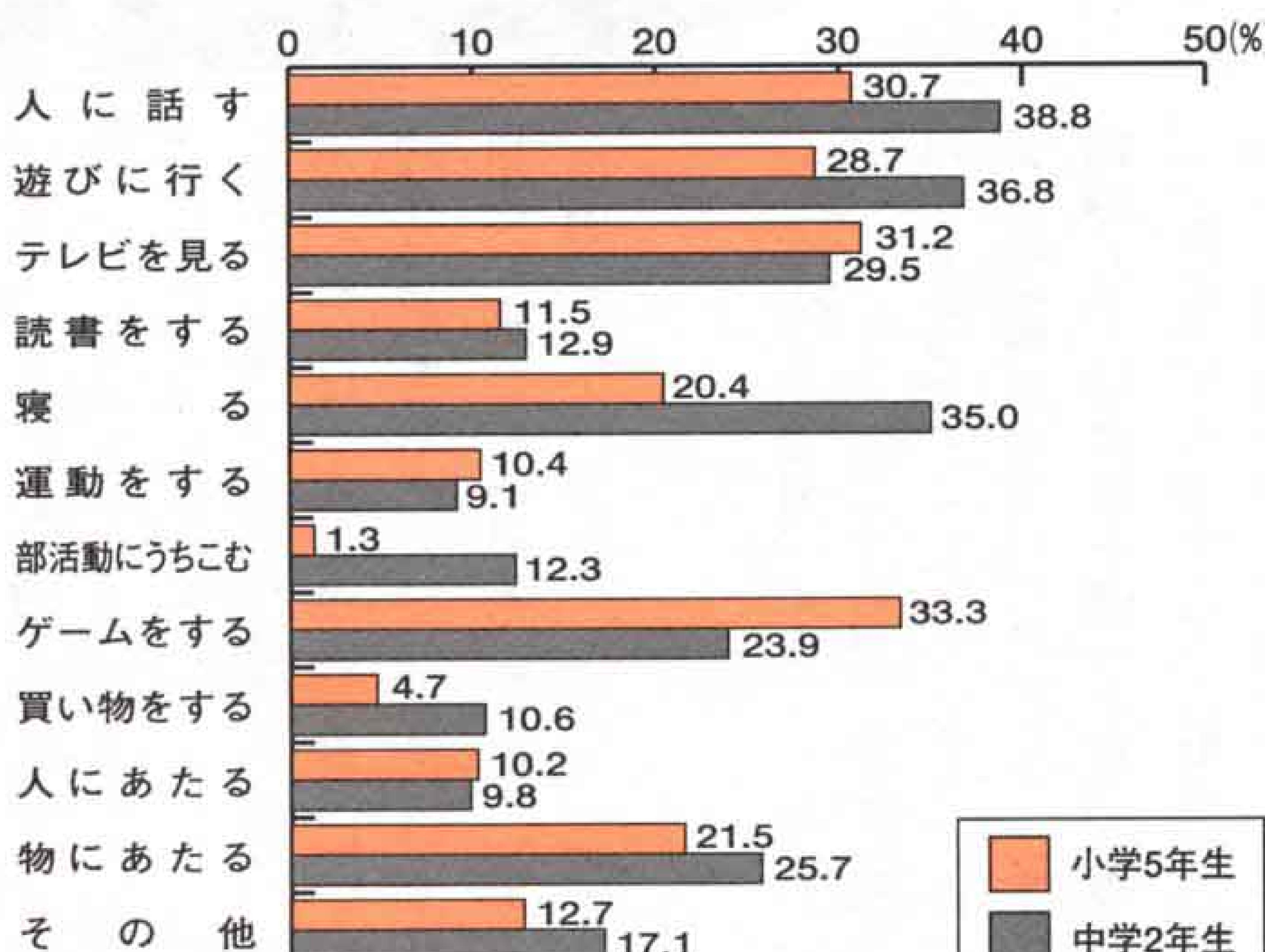
問5	自分を抑えられないことがありますか。	3.3	2.2
よくある	ある	11.8	13.5
ときどきある		51.5	63.5
あまりない		24.0	20.4
まったくない			
問6	グラフ④		
問7	一緒にいると気持ちが落ちつく人はだれですか。 (複数回答)		
父母		45.8	33.6
きょうだい		23.8	23.0
祖父母		16.2	10.4
友人		49.9	74.3
先生		5.6	2.4
保健室の先生		3.4	1.0
その他		3.4	5.3
特にいない		11.7	14.5

問8 気持ちが落ちつく場所はどこですか。(複数回答)	63.5	69.2
自分の家	14.0	14.5
友人の家	8.8	9.4
学校	2.9	4.9
塾	6.3	5.7
遊園地	9.6	6.5
公園	33.5	29.5
自然の中	7.2	13.4
その他	5.5	8.5
特にない		
問9 将来の夢がありますか。	36.5	31.8
大いにある	35.7	41.1
まあまあある	13.1	20.0
あまりない	4.6	5.7
まったくない		
問10 富士市は住みよいですか。	36.6	21.4
とてもよい	45.1	59.7
まあよい	6.9	13.8
あまりよくない	1.5	3.7
まったくよくない		

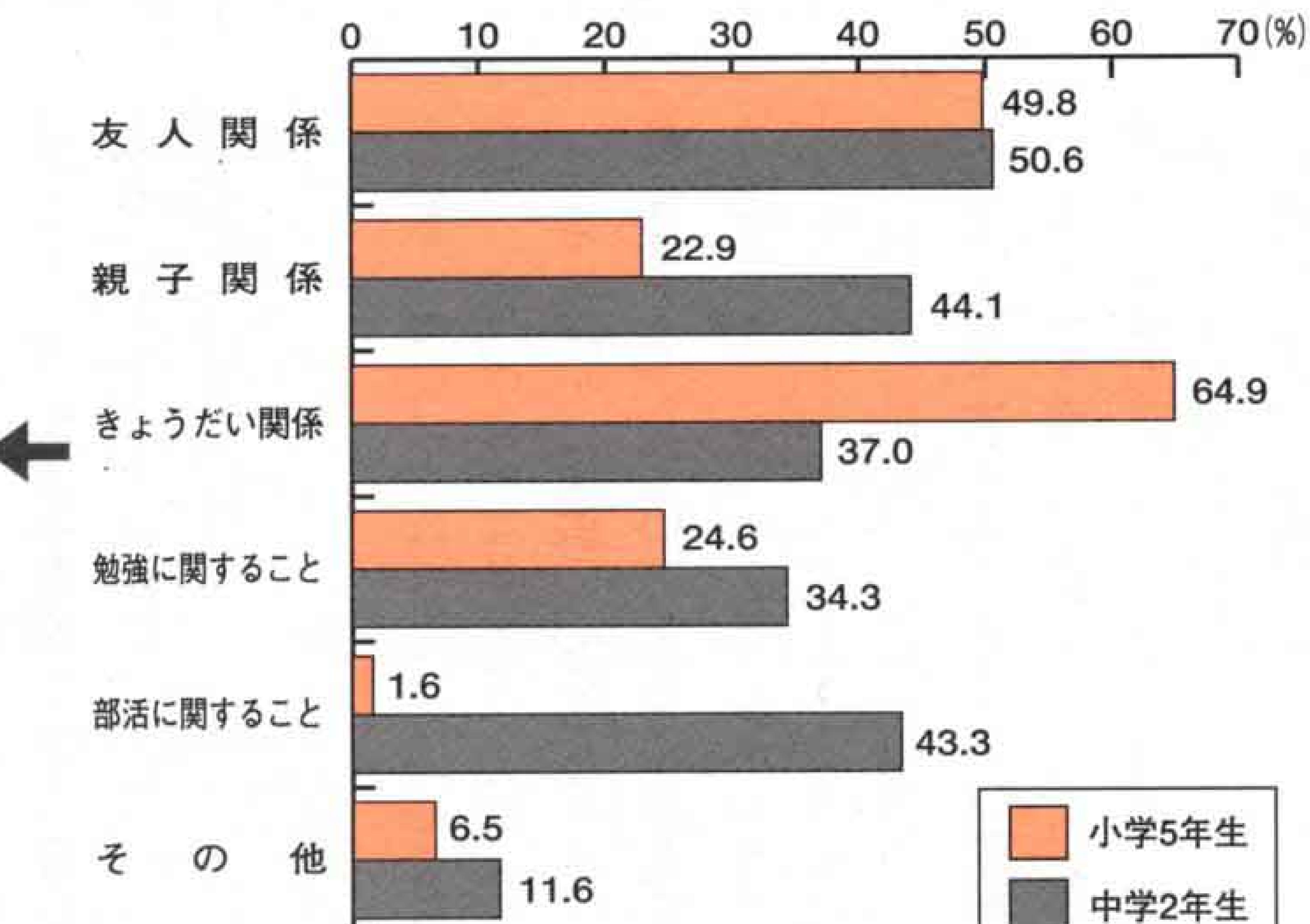
ストレス、力がつきたを感じている子供たちは半数以上  
間3でストレスがたまるとがあるか尋ねたところ、「よくある」  
あるいは「ときどきある」と答えた人が、小学生が五五・七%、中  
学生が七五・七%と半数を超えて  
いました。また、小中学生で一〇  
%も差がありますが、中学生の割  
合が高くなるのは行動範囲が広が  
るためと思われます。

間4で「力つかつく」とあるか尋  
ねたところ、「よくある」あるいは  
「ときどきある」と答えた人は、  
小学生が六五・四%，中学生が七  
八・〇%と、中学生の方が割合が

③問 4-2 ムカついたときの解消方法はどれですか。(複数回答)



## ②問 4-1 どんなことでムカついたことがありますか。(複数回答)



高くなっています。

そして、問4-1でムカつくことの理由を尋ねたところ、小学生では、「きょうだい関係」が最も多く、「友人関係」「勉強に関すること」の順になっています。中学生では、「友人関係」が最も多く、「親子関係」「部活に関すること」の順になっています。また、「きょうだい関係」以外はすべて小学生に比べて割合が高くなっています。

それだけ自我が目覚めて自己主張が強くなつたと考えられます。

さらに、問4-2でムカついたときの解消方法を尋ねたところ、小学生では、「ゲームをする」が最も多く、次に「テレビを見る」が多くなっています。中学生では、「人に話す」が最も多く、「遊びに行く」「寝る」の順になっています。「人に話す」がもつと多くなつて、対人関係の中で解決してほしいものです。また、「運動をする」「部活動にうちこむ」という割合が低く、ゲームなどの疑似体験でしか発散できないということには問題があるのです。そして解決できずにあるので、「人や物にあたる」ということには非常に問題があると思われます。

## 悩みの一一番の相談相手は、 小学生では父母、中学生では友人

問6で深刻な悩みをだれに相談するか尋ねたところ、小学生では、「父母」が五〇・一%と最も多く、

「友人」四四・四%、「先生」「特にいない」の順になっています。

中学生では、「友人」が七〇・三%

と最も多く、「父母」三四・八%、

「特にない」「先生」の順になっ

ています。また、小学生に比べて

「友人」と答える割合が低くなり、

「父母」と答える割合が高くなつて

います。しかし、小学生でも半数

は親に相談しないという現状です。

問7で一緒にいるとき持ちが落

ちつく人を尋ねたところ、小中学

生とも「友人」が最も多いが、「父

母」「きょうだい」「祖父母」の割

合が比較的高く、家族への信頼感

は高いと考えられます。しかし、

「父母」の割合が小学生で四五・

八%、中学生で三三・六%と、親

と一緒にいると半数以上はほと

りません。  
できないと答えているのは気になります。

問8で気持ちが落ちつく場所を

尋ねたところ、「自分の家」と答えた人が六割を超えていて、自宅でくつろいでいるというのは好ましいと思われます。しかし、問4で

のムカつきの解消方法から考える

と、自分の家といつても自分の部屋などで一人になれるところを指

しているのかもしれません。ただし、問6と問7と合わせて、「特にない」「特

にない」「特になく」と答えた人

が気になるところで、相談相手

がない、気持ちが落ちつく人が

いない、自分の居場所がないとい

う子供たちが多くなりつつあるの

は問題だと考えられます。

(分析: 教育委員会、家庭児童相談室)

青少年相談所から

## だれにも起こり得る問題行動。 サインの早期発見・即時対応を

青少年相談所に寄せられる相談件数は、

不登校に関する相談を中心によくふえています。不登校の原因としては、まず、

人間関係のつまずきが挙げられます。こ

れは、好ましい人間関係づくりのための

さまざま体験が不足していることが背

景として考えられます。また、極めて少

さですが、問題行動を起こしている子

供についての相談もあります。最近の問

題行動は、決まりを守るという意識の低

下が原因として考えられます。

不登校や問題行動を起こす可能性は、

だれにでもあります。それは、近ごろの

子供たちの訴えの中に、イライラする、

ムカつくといった内容が多くあることか

らもうかがえます。したがって、子供た

ちに対しては曰ごろから、大きな心で接

わりをすることが大切です。

子供たちが不登校や問題行動を起こすのは、よく「突然」と言われています。しかし、問題行動を起こす前には、登校を渋るなどの何らかのサインがありますので、それを早く感じ取り、すぐに対応をとることが必要です。



青少年相談所  
佐野 良夫 所長

## 継続的な働きかけが

### 子供たちを変える



朝のあいさつ運動



夏休み巡回補導

大淵中学校PTA会長  
小山博行さん（大淵）

大淵中学校PTAは、子供たちを守り、子供たちが楽しい中学校生活を送るようとに、下校時巡回パトロール、夏休み巡回補導、地区懇談会、朝のあいさつ運動、アンケート調査（親と子の関係について）など活発な活動を行っています。

また、神戸市の事件があつた平成九年からは、PTA会員全員に「パトロール中」と書いてある巡回ステッカーを配布して、運転するときに車につけてもらうように協力を呼びかけています。

おかげで、現在の大淵中はとても安定していて、子供たちから何ごとも前向きな姿勢が感じられるようになりました。

子供たちは、毎日元気にあいさつを交わし学校へ通っています。私たちPTAも、子供たちと本音で話し合うために勉強し、子供たちと一緒に成長していきたいですね。そして、この活動を代々継続していくってほしいと思っています。

今から十年ほど前、全国的に中学生が荒れていた時期がありました。大淵中では、当時のPTAが立ち上がり、子供たちの心の問題は親にも責任があるとし、臨時総会まで開いたそうです。そこで、「伝統ある大淵中を…」について話し合い、子供たちにも直接熱く語りかけたと聞いています。そして、このとき始められたPTAのさまざまな活動が今まで継続されてきました。

おかけで、現在の大淵中はとても安定していて、子供たちから何ごとも前向きな姿勢が感じられるようになりました。

この取り組みは、運動会、文化発表会、豆まき大会など、学校行事を通して発表しています。さらに、今では学校から離れ、PTAの協力も得ながら、祭りをはじめ地域のさまざまな行事へと発表の場を広げています。

保存会の皆さんには自分たちにとつて身近な存在となっています。気軽に何でも話せて、皆さんからは学校で教えてくれないことも教えてもらつて、とても勉強になります。

最近、地域のお祭りなどへ出かけました。最初は恥ずかしかつたけれど、今は地域の人々に喜んでもらえてとてもうれしいです。それに、吉原東中生徒が全員で取り組んでいるので、学年に関係なく、みんなで一緒にやっているという感じで満足感があります。

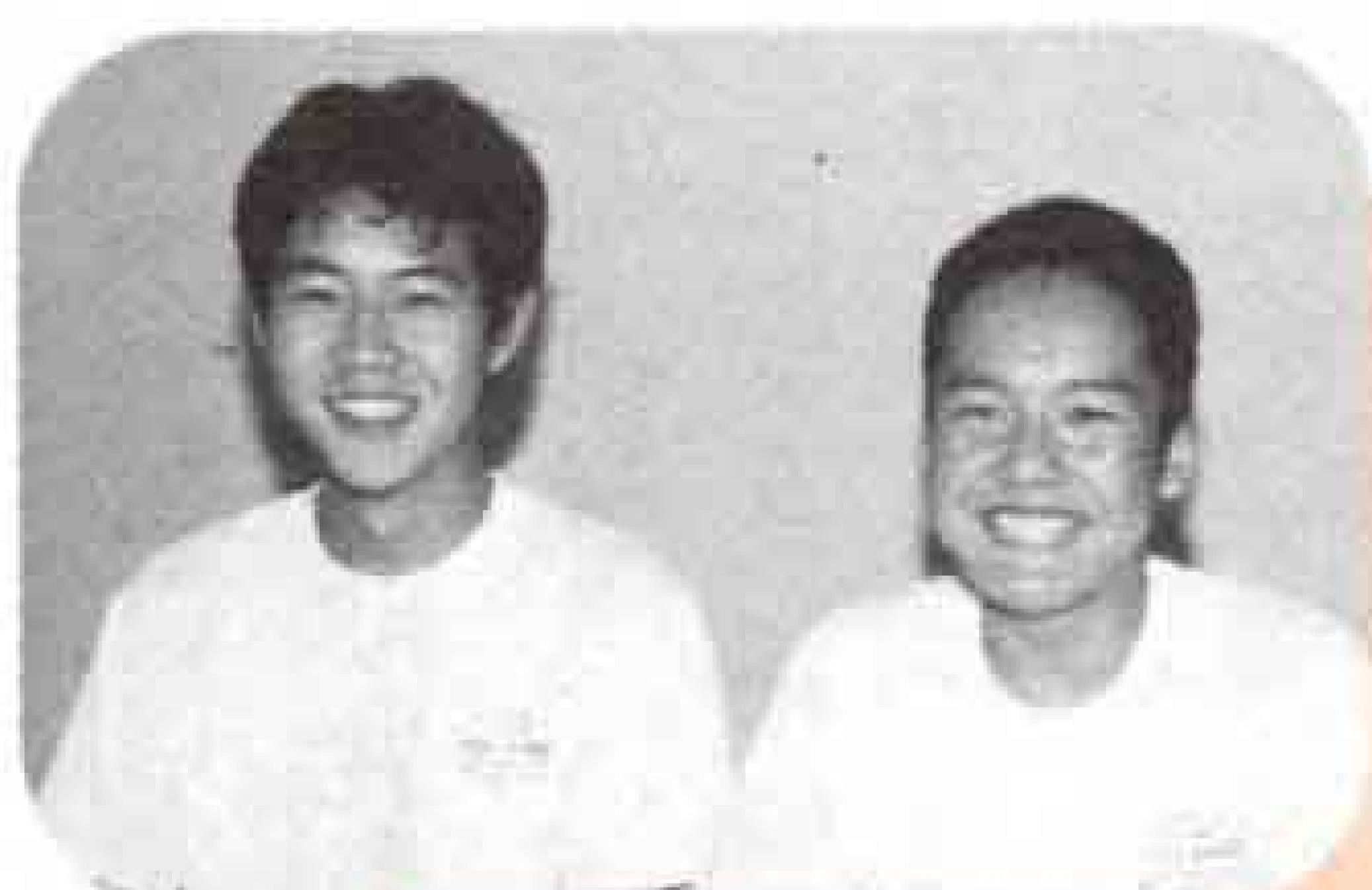
これからも、郷土芸能は東中の伝統にしていくつほしいし、自分たちも続けていきたいと思います。

## 郷土芸能を通じた

### 地域との交流



富士岡神楽の練習風景



佐野紘史君  
(3年・富士岡) [右]  
鈴木利哉君  
(3年・比奈)

得ながら、祭りをはじめ地域のさまざまな行事へと発表の場を広げています。

これからも、郷土芸能は東中の伝統にしていくつほしいし、自分たちも続けていきたいと思います。

## コーラスを通して

### 親子が心をひとつに



親子コーラスの練習風景



近藤智美さん

(6年・松本) [右]

佐野朱音さん

(6年・松本)

富士中央小学校では、平成五年の開校のときから、ノーチャイムを実施しています。これは、子供たちの自主性を重んじて、子供の生活を大事にしたいという願いが込められていて、子供たちはその願いにこたえています。

また、富士中央小のPTAは、親

子レクリエーション大会など、親子で楽しめるような活動を行っています。中でも親子コーラスがこの学校の特徴です。

PTA会長の山崎恵章さんは、「大人と子供は声の質が違うのでコーラスは難しいと言われるため、親子コ

ーラスは珍しい存在。しかし、ここでは、上手に歌うことよりも、みんなで歌を楽しむことを目的にしています。そして、一つの曲を気持ちをそろえて歌うことにより、みんなと会話以上のつながりが出てきます。音楽を通して親も子も心豊かになつてきますよ」と言います。

ここには、在校生とその親だけでなく幼稚園の子や中学生、先生もいてみんなと一緒に歌を歌うのがとても楽しいです。特に、親と一緒に何かをやるなんてことはほとんどない

のでうれしいです。それとここではいつもとは違う親の姿を見られて、新しい発見もありました。もう一緒に歌えるのも今だけかなと思って、この時間を大切にしていきたいと思います。

## 子供たちとの

### 子供たちの

### 心の居場所づくりを実現



「ニコはうす」で遊ぶ子供たちと会員の皆さん

富士こどもネットワーク代表  
瀧元高子さん（本町）

「ニコはうす」は、だれでも立ち寄れる自由な空間です。ここには、毎日二、三十人の子供たちが来ます。中には、無表情な子、暴れる子などもいます。でも、みんな親や先生に話せないこともいろいろ話してくれます。子供たちはいつでも行けて、安心できる居場所を探しているのだと思います。

この活動を通して、子供たちの心がだんだん見えてきたような気がします。一見不可解な子供の行動は、それが子供たちの叫びSOSなのだと。そういうことが、言葉になくても肌で感じます。私たち大人がいかに本音で向き合うかが大切になってくると思います。ただ、この活動は個人の力では続けることが難しいので、こういう活動がもっと全市的に広がっていってほしいですね。また、行政の援助もぜひいただければと思っています。

子供たちの  
心が  
見えますか

# 私たちの心ひとつで 子供たちを守れる



地域みんなで

子供たちを見守つて

近ごろは、子供と接する機会がほとんどないですね。たまに、子供に会つてもあいさつもできないような関係になっています。昔は、近所の子供たちが何をしているかわかつたものですが…。地域は通学するときだけのものになっていて、地域と子供たちの関係は希薄になっているような気がします。ですから、子供がたばこを吸つたりしても、注意する人はあまりいませんね。みんな自分の子供だけを見るのに精いっぱいです。

しかも、地域ではテレクラ、有害図書など子供たちを取り巻く環境に多くの問題を抱えています。身近なところで悲しい事件が起らぬ接し方をするかが問題となってきます。まずは、子供の話に耳を傾けることです。「猫よりひどい親もいる」と言うんですが、猫は子供の愚痴にニヤーと受けとめるけれどもそれすらできない親もいます。子供が安心し



子供たちのサインを  
絶対見逃さないで

アンケートの結果（P4・5参照）を見て、この結果は何となくわかるような気がします。自分たちが中学生だったとき、やはりあまり子供たちを見守つていかなければいけないと思います。そのためには、多くの人が子供に意識を向けてほしいし、どんな子供にも隔たりなく接してほしいですね。逆に何でも親が干渉してくるので反抗的でした。それに親に弱みを見せるのがいやで、親の前でいい子を演じていたように思います。

吉原ジュニアリーダースクラブ

## — 子供の心の危険信号 — こんなサインに ご注意！



感情の起伏が激しい



生活が不規則になる



家族との対話を避ける



ペットなどをいじめる



成績が急に落ちる



うそをついたり、  
ごまかしたりする



部屋に閉じこもる



体の不調を訴える

★ここで紹介したサインは一部に過ぎません。また、これらのサインのある子供のすべてが問題行動を起こすわけではありません。

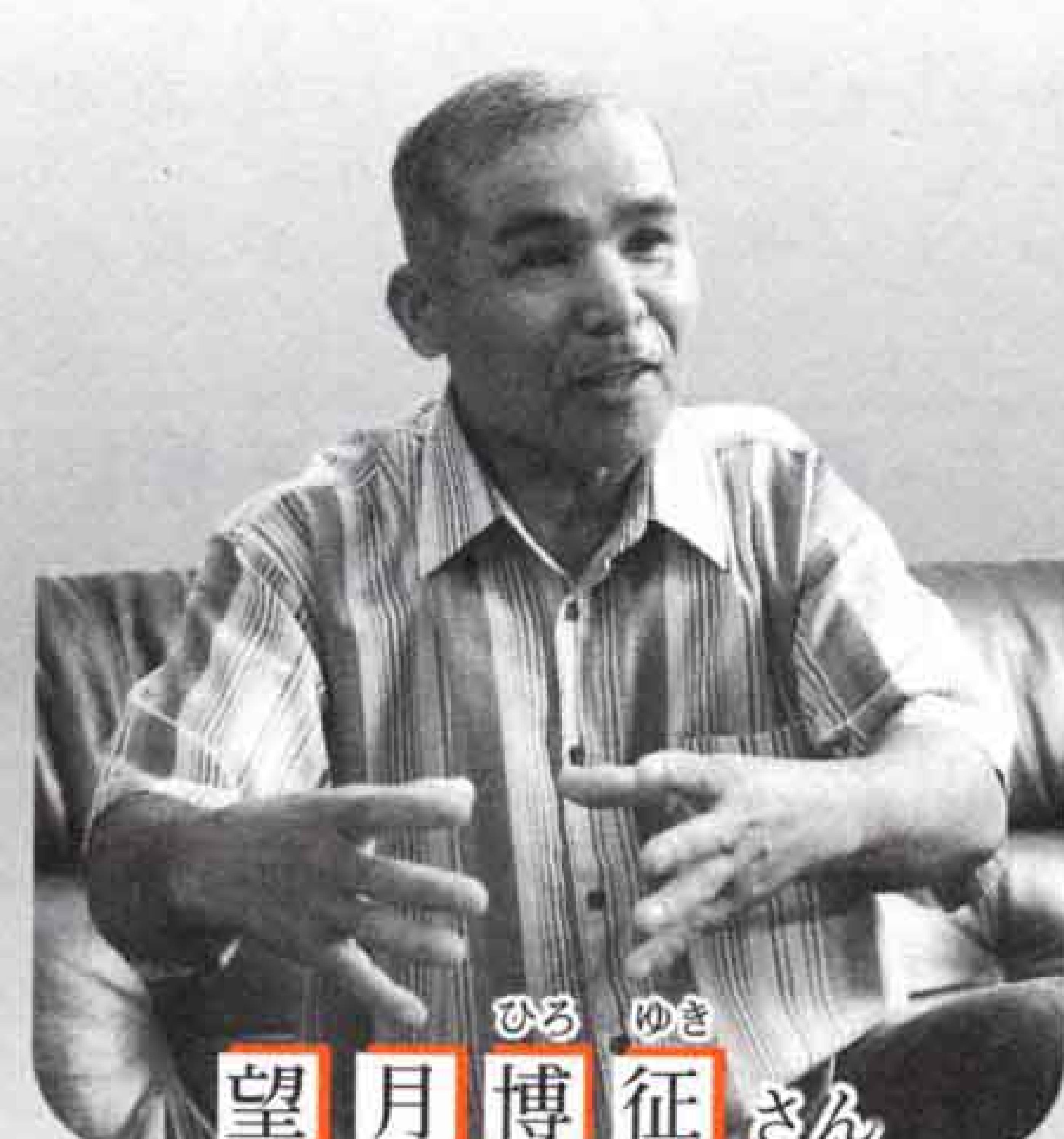
<日本広報協会発行の情報ブックレット「子どもの心に向き合う心」を参考>

て話せるようにしてほしいですね。  
次に、「あなたメッセージ」ではなく、「私はメッセージ」にすることです。親がよく使う言葉に「早く」「頑張って」「勉強しろ」がありますが、「あなた〇〇して」と、この主語はみんな子供で「あなたメッセージ」なんですね。「〇〇だから私は〇〇してほしい」など、親の本音を子供に語っていく「私メッセージ」にすれば親の気持ちが伝わっていくはずです。また、人それぞれ価値観が違います。子供の個性を生かすよう、子供がしたいことをできる環境をつくってあげてほしいですね。

親子関係がうまくいっていないと、子供は意欲的に生きられません。良好な関係をつくるために親が変わつていけば子供も変わつていきます。少しずつでもいいから変わつてく必要だと思います。

子育ては不安がつきものですが、その時期はたつた一時期です。父親も母親もその時期を本当に大事にしていただきたいと思います。

また、子供が遊べるたまり場をつくりたいですね。そこにお年寄りなど地域の人々が中に入りついて、何でも話ができるようになるのが理想的。それから、地域で子供たちとふれあう活動を進めていくことが必要ではないでしょうか。それも大人がおせん立てしたものではなく、それぞれの役割の中で子供たちが計画から携わつていき、大人がサポートするという活動を広げていくといいと思います。



望月博征さん  
(入山瀬2)

富士市生涯学習推進会  
青少年育成部

ストレスやムカつくことについては、その解消方法が問題だと思います。自分たちはジニアリーダーという活動にのめり込んでいて打ち込むものがあつたので、嫌なことはみんな忘れちゃいましたね。

自分たちも経験があるけれど、子供って嫌なことがあつたりすると無口になるなど態度であらわすんです。そういうときは、親でも友達でも気づいてもらつて、何があったのか聞いてほしいんですね。さまざまな事件が起きていますが、そういう子供は自分の殻にこもつていたんだと思います。にこにこして聞いています。その子はいい子と思われるだけです。自殺したり犯罪を起したりするくらいなら、勇気を出してせめて態度や表情に出した方がいい。サインを出せばだれかが助けてくれます。だから、周りもそのサインを絶対見逃してはいけないんです。そう考えると、一人でもいいから何でも話せる人がいるといいと思います。

アンケートの結果についてですが、全体的に富士市の子供たちから前向きな姿を感じられました。中でも、「毎日が楽しい」「富士市は住みよい」と答えた子供が多かったのはうれしいですね。気になることとしては、自由意見の中で、大人に対して「自由が欲しい」と答えていた子供が多くつたことと、少しですが、「まったく楽しくない」と答えた子供がいたことでしょう。

太田 均  
ひとし  
教育長

## 家庭、学校、地域が協力して 子供を育てるという気持ちが大切

学校の取り組みとしては、先生方が子供とできるだけ多く接するようにして、子供の心を理解するように努めています。そのために、よく先生方に「子供の目をのぞいてください」と言っています。また、子供たちを呼び捨てにしないで「さん」「君」づけをしたり、大声でしかることを気をつけたりと、子供の人格を尊重する「わかる楽しさを味わえる

子供たちが心も体も健やかに育つていくためには、子供のことと家庭だけ、学校だけに任すのではなく、家庭と学校そして地域が協力し合つて市全体で一人一人の子供を育てるという気持ちが大切になります。子供たちには、その年齢に応じてきちんと守らなければならぬルールがあるということをわかってほしいですね。そして、何か困ったことがあつたらぜひ一人で悩んでいないでいます。

子供たちと親密にふれあうことによって、子供たちのストレスを解消したり、相談に乗ったりしています。このように、市では学校全体で子供たちが相談できるような環境をつくることを目指していきます。

また、生涯学習推進会が中心となつて、学校、保護者、警察などと連携をとりながら、青少年育成サポート事業も行っています。具体的には、子供たちが集団の中での遊び方、人間とのつき合い方を学べるような活動です。

「授業」にしようと努めています。そのほか、保健室では、体だけでなく心のケアができるようになっています。特に、十月からは「心の教室相談員」を市内全中学校に配置しました。相談員は、草花栽培やパソコンなどの特技や趣味を生かした活動を通じて、子供たちと親密にふれあうことによつて、子供たちのストレスを解消したり、相談に乗ったりしています。

このように、市では学校全体で子供たちが相談できるような環境をつくることを目指していきます。

## ■子供に関する相談はこちらへ■

市や県、国では、悩みや不安を抱える子供や保護者の相談に応じています。相談は無料で秘密は固く守ります。  
気になることがありましたら、気軽にご相談ください。

相談窓口・名称	とき	ところ	相談内容	受け付け
青少年の面接相談	月～金曜日 9:00～16:30	富士市青少年相談所 (今泉8-5-1)	学校生活、非行、友達関係などの悩みについて	電話で富士市青少年相談所へ ☎52-4152
電話相談 「青少年相談ふじ」	月～金曜日 12:00～17:00		〃	電話で ☎51-3741へ
家庭児童相談室	月～金曜日 8:30～17:00	市役所3階児童福祉課	性格、生活習慣、家族関係、学校生活などの悩みについて	電話または直接児童福祉課へ 内線2332
野バラの会	第2金曜日 9:30～11:30	吉原公民館	不登校やいじめなどの悩みについて (保護者対象のグループカウンセリング)	当日直接吉原公民館へ 問い合わせ 児童福祉課内線2332
富士警察署	月～金曜日 8:30～17:00	富士警察署 (荒田島166)	非行、少年全般の問題について	直接または電話で富士警察署 生活安全課少年係へ ☎51-0110
人権相談	木曜日 10:00～15:00	市役所2階市民相談室	いじめ、暴力、仲間はずれ、無視、おどし、たかりなどの悩みについて	当日直接市民相談室へ
子どもの人権110番	月～金曜日 8:30～17:00	静岡地方法務局富士支局 (御幸町13-19)	〃	電話で静岡地方法務局富士支局へ ☎53-1200
県立吉原林間学園	月～金曜日 9:30～17:00	県立吉原林間学園 (大淵2781)	不登校、落ちつきがないなど情緒障害の悩みについて	電話で県立吉原林間学園へ ☎35-0076
ハロー電話「ともしび」	月～金曜日 9:00～19:00 土・日曜日、祝 9:00～17:00 (年末年始は休み)	県生涯学習振興財團 教育相談室	学校生活や進路などの悩みについて	電話で ☎0559-31-8686へ
県東部児童相談所	月～金曜日 8:30～17:00	県東部児童相談所 (県東部総合庁舎本館4階)	性格、非行、家族関係、児童虐待などの悩みについて	電話で県東部児童相談所へ ☎0559-20-2085

皆さんは、子供たちの心が見えますか。

いえ、実は見える見えないかが問題ではなく、子供たちにかかわるすべての私たち大人の、子供たちへ向かう心がどうなのかが問題なのかもしれません。そう考えると、身近にいる子供たちの心もまた違って見えてくるのではないかでしょうか。富士市の子供たちが心も体も健やかに成長するよう、富士市全体で温かい目で見守っていけたらいいですね。